

優 秀 賞

湧水の復活を願って

茨城大学教育学部附属中学校

二年 佐々木 あすか

私の通っている中学校の近くには、曝井と呼ばれている泉があります。愛宕山古墳の西側にある灌坂の中腹にある、小さな湧水です。昔の人々が、この湧水で布を洗って曝していたことが由来となって名付けられました。周りは竹林に囲まれており、風が吹くと、竹のカラカラという音が周囲に響きます。春には筍も生えており、秋には紅葉を見ることがもできる自然豊かな場所です。

しかし、晴天の日でも薄暗く、泉の水量が少ないため、近くにある小さな池はよどんでいました。

「萬葉曝井の森」として整備されていますが、観光客が時折訪れる程度です。今となっては、近くに住んでいても行ったことがない人がいるくらい、身近

な存在ではなくなっていました。

そんな曝井も、昔は、水がきれいで水量も豊富だったため、人々の生活には欠かせない場所でした。常陸國風土記や万葉集に載せられるほど、有名な場所でもありました。

私は小学生の時、地域の湧水について興味を持ち、自由研究で調べました。すると、水戸の中心部は台地の上であり、台地のすそにはたくさん湧水が分布していることがわかりました。昔は、どの湧水も水量が豊富で、水もきれいだったようです。けれど、今はこれらの湧水は、水量が少なく、水質も低下し、ほとんどが飲用や生活用水に適していません。地面の多くが舗装され、雨水が染み込まないことが原因の一つではないでしょうか。

現在の水戸市の水道は、那珂川から取水し、浄化して使用しています。しかし、災害が起きると水道が使えなくなることがあります。実際私も、東日本大震災の時は、停電より断水で困りました。そんな時、役に立つのが湧水です。水戸市上国井町にある軍民坂湧水は、今でも飲用に使われています。古い

コンクリートで丸く囲われた中から水が豊富に湧き出て、側溝に流れ落ちていきます。近くには飲用水の基準に適合しているという検査証がはられ、ひしゃくがつるされています。私が訪れたのは夏の暑い日でしたが、通りかかった農家の人が車を降りて、美味しそうに水を飲んでいました。東日本大震災の時は、遠くからも人が来て、水の順番を待つ行列ができたそうです。

人が生きていく上で、水は欠かすことができません。そのため、今後の災害に備えて、湧水の復活を考えることは重要だと思います。調べてみると、埼玉県越市では、道路や駐車場の舗装を雨水が染み込むものに変えたり、雨水の利用を増やすなどして、水の循環の拡大に取り組んでいることがわかりました。湧水の復活事業は、雨水の集中を防ぐので、集中豪雨への対策にもなるそうです。環境省は「湧水保全・復活ガイドライン」を出していて、「湧水は普段見ることができない地下水が地表に姿を現したものであり、湧水を保全することはその源である地下水を保全することにも繋がります。」とありまし

た。湧水の復活は、地域の災害井戸の保全や水質改善にも繋がることがわかりました。

私は地域の湧水を調べていて、きれいで豊富な湧水を見ると、とても癒されました。湧水は水資源として役に立つだけでなく、私たちに安らぎを与えてくれます。

今は人気がない曝井ですが、水量が増し、水がきれいになれば、地域の憩いの場になるのではないのでしょうか。私は、より多くの人に湧水の大切さを知ってもらい、湧水を復活させたいと願っています。